

平成22年7月28日

本会加盟団体医事担当者 殿

財団法人 日本オリンピック委員会
情報・医・科学専門委員会
委員長 澤木 啓祐

国立スポーツ科学センター
スポーツ医学研究部
主任研究員 川原 貴

メディカルチェックにおけるアスリートの視力について

現在、JISSにおけるメディカルチェックにて、全選手に視力検査行っておりますが、トップアスリートの視力の実態が明らかになってきました。

結果の要点は以下の通りです。

- 1) アスリートの34%は競技で視力矯正をしている。
- 2) 視力矯正状態で検査を行ったが、アスリートの6.2%は両眼視力が1.0以下であり、片眼または両眼視力が1.0以下の選手は、全体の24%も存在した。

競技特性にもよりますが、静止視力はパフォーマンスにも影響する重要な機能であり、視力矯正が競技力能力を向上させる可能性があります。メディカルチェック帳票では、両眼もしくは片眼の視力が1.0に満たない選手に関して、再検査もしくは眼科受診のコメントを入れてありますので、各競技団体においても視力矯正に関してご指導をお願いいたします。